

「道の駅ひらた」 移転再整備基本構想



令和 7 年 8 月
福島県平田村

目 次

1. はじめに	1
2. 道の駅の概要	2
3. 現在の道の駅ひらた	4
4. 移転整備の必要性	10
5. 整備コンセプト	11
6. 道の駅導入機能・施設の検討	12
7. 施設規模	20
8. 道の駅の整備・管理運営手法について	21
9. 道の駅ひらた移転候補地の選定	23
10. 施設等の配置	25
11. 事業計画	26
12. 道の駅ひらた移転再整備検討委員会名簿	27

1. はじめに

しばぎくらの里「道の駅ひらた」は、平成 21 年 6 月 12 日に福島県内 18 か所目の道の駅として登録（福島県内の国道 49 号においては 2 か所目。）され、「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の 3 つの機能を備えた道の駅として、平成 21 年 7 月 5 日にオープンしました。

平田村を中心とした地元福島産の農産物や農産加工品、手工芸品や名産品などの直売をはじめ、平田産のそば粉を使い、店頭打ち立てのそばを提供しています。

位置は東北自動車道矢吹 IC と磐越自動車道小野 IC を結ぶ高規格道路「あぶくま高原道路」の平田 IC から国道 49 号を北に 400m 程進んだクロスポイントに立地している。

道の駅から 2 キロ北にある「ジュピアランドひらた」は、芝桜、あじさいゆりが有名で、4 月中旬から 7 月中旬までの間、県内外から数多くの観光客を集客する拠点にもなっています。

このような中、本村では、「道の駅」第 3 ステージの取組を進めるべく地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置づけられる「道の駅」について「防災道の駅」として機能保有を目指し、滞在型防災拠点としての役割を果たすため、道の駅ひらた移転再整備検討委員会を組織し、移転整備の検討を進めるものです。



2. 道の駅の概要

(1) 道の駅とは

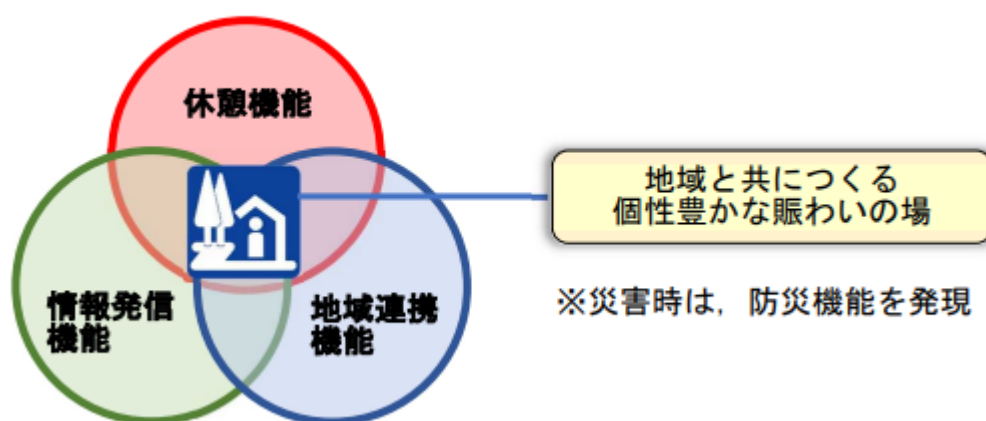
「道の駅」は道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして道の駅をきっかけに地域間交流、活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ、「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の振興や安全の確保に寄与」することを目的とした、国土交通省に登録された休憩施設です。

令和7年1月現在の全国登録数は1,230か所であり、道の駅ひらたもその1つとなっています。

これらの休憩施設が個性豊かな賑わいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されます。

【道の駅機能】

- 休憩機能 ●24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- 情報発信機能 ●道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- 地域の連携機能 ●農産物販売施設、地場産品を活用した地域振興施設

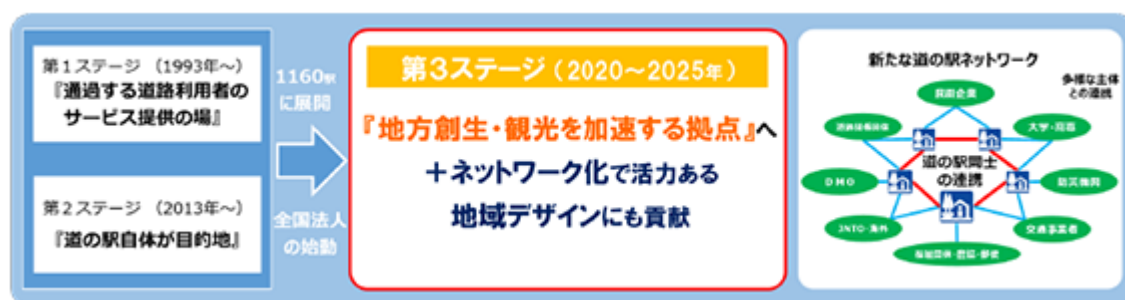


「道の駅」コンセプト（国土交通省 HP より引用）

(2) 道の駅第3ステージ概要

「道の駅」は、制度発足（第1ステージ）から『通過する道路利用者のサービス提供の場』として、全国各地に広がり、第2ステージにおいて『道の駅自体が目的地』になるよう、土産物店や食堂だけでなく、さまざまな観光施設が併設されるようになりました。

2020年からはさらに機能を高めて地方創生の拠点を目指し、新たなコンセプトである『地方創生・観光を加速する拠点』及び『ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献』を実現（第3ステージ）に向けて進めています。



(3) 目指すべき3つの姿

① 道の駅のブランド化

新たなインバウンド観光拠点のため、外国人に対する受け入れ環境を強化するため、多言語対応や、キャッシュレス導入の推進等を進め、また、観光MaaS（アプリで交通とジュピアランドひらたなどの観光施設を案内）との連携等による移動の活発化も進める。

② 安心・安全拠点の「防災道の駅」

近年、想定外の自然災害が頻発し、後の災害への備えのため、広域的な復旧・復興活動拠点となる「防災道の駅」認定制度の導入と重点支援。地域防災力強化のためのBCP（業務継続計画）策定や防災訓練の実施。

③ あらゆる世代が活躍する地域センター

子育て応援施設の併設、大学等との連携によるインターンシップや実習（商品開発等）など、応益機能の強化。

3. 現在の道の駅ひらた

(1) 経過

平成 13 年 2 月の、あぶくま高原道路平田 IC 計画発表を契機に、国道 49 号沿いを対象として、地域活性化の一助とすべく「道の駅」整備の可能性について検討を始めました。「道の駅」は、トイレや休憩機能、道路情報提供機能ならびに地域振興施設を一体的に整備して、安全で快適な道路交通環境や多様なサービス機能の充実を図り、また、本村の歴史・産業・文化・観光など、地域の情報発信、さらには特産物等の販売を通して、道路利用者や来訪者に様々な利便性を提供し、人と自然が輝き、活力のみなぎる地域づくりを目指す多機能拠点となるものです。同年、村民・村議会等による勉強会や事例視察などを行いながら情報収集に努め、同年 6 月、庁内に「平田 IC 周辺整備計画検討委員会」を設置して本格的に検討を始めました。平成 14 年には、道路管理者である国土交通省郡山国道事務所と協議を開始し、「道の駅基本構想」を、15 年より詳細に設置可能性をさぐるため「平田 IC 周辺整備基本計画」を策定、計画対象位置の候補選定や整備のあり方・可能性などについて検討しました。その結果、道の駅設置の必要性は高いとの結論を得たことから、平成 16 年にかけて関係機関との協議や村議会への説明を重ね、設置へ向けて具体的検討に入りました。平成 17 年、道の駅においては、広域交流・地域振興の拠点や、地場産品・情報発信の拠点として、郷土色豊かな個性的で魅力的なもの、地域の情報や物産品、地元の人々とのふれあいやおもてなしの心を来訪者に提供していくことが重要であるとの考えから、地域住民をはじめ関係機関が相互に連絡調整を行い、「住民が主人公になる道の駅」整備ならびに整備後の円滑な維持管理を図ることを目的に、「「仮称」道の駅ひらた」検討委員会および作業部会を設置し、幅広い意見をいただきました。平成 18 年、設置予定箇所等の環境影響調査を行い、設置場所の決定がなされたことを受け、平成 19 年より対象区域の用地測量、次いで敷地造成設計を行い、建物については、一体的整備のため国整備の道路情報提供施設、村整備の地域振興施設の両施設を考慮した上での設計コンペを開催し、デザインを決定しました。

平成 19 年 12 月に国整備分の造成工事が発注されて以降、整備・建設工事が順調に推移し、平成 21 年 7 月 5 日のオープンになりました。

平成 13 年 2 月	あぶくま高原道路平田 IC 計画発表（福島県）
平成 13 年 5 月	村議会による IC 周辺開発検討のため道の駅視察
平成 13 年 6 月	庁内平田 IC 周辺整備計画検討委員会設置
平成 13 年 11 月	検討委員会で平田 IC 周辺土地利用について検討し、道の駅整備を優先に決定（庁内検討委員会）
平成 14 年 1 月	道の駅設置場所について具体的検討 国交省郡山国道事務所と村の素案について協議
平成 14 年 4 月	道の駅基本構想決定
平成 15 年 12 月	平田 IC 周辺整備基本計画策定
平成 16 年 5 月	郡山国道事務所および福島県と協議
平成 16 年 11 月	あぶくま高原道路平田 IC～小野 IC 開通
平成 17 年 1 月	国交省東北地方整備局現地調査（上蓬田横森地内）
平成 17 年 3 月	（仮称）道の駅ひらた検討委員会・作業部会設置
平成 17 年 10 月	（仮称）道の駅ひらた検討委員会 地元委員意見交換会
平成 18 年 7 月	環境影響調査
平成 18 年 11 月	道の駅設置場所決定
平成 19 年 1 月	用地測量
平成 19 年 9 月	道の駅敷地造成設計
平成 19 年 12 月	道の駅（地域振興施設・道路情報提供施設）設計コンペ 敷地造成工事発注（国所管分）
平成 20 年 5 月	敷地造成工事発注（村所管分）
平成 20 年 8 月	地域振興施設建築工事発注（村）
平成 20 年 9 月	舗装工事発注（国） 道路情報提供施設発注（国）
平成 20 年 10 月	舗装工事発注（村）
平成 21 年 5 月	地域振興施設工事完了（村）
平成 21 年 6 月	道路情報提供施設工事完了（国） 道の駅登録証交付（福島県－18 番）
平成 21 年 7 月	道の駅オープン（7 月 5 日）

(2) 施設概要

① 敷地

全体面積 8, 392 m²

国所管分 5, 109 m²

村所管分 3, 283 m²

② 施設・駐車場

施設面積 675.49 m²

うち道路情報提供施設（国） 284.93 m²

うち地域振興施設（村） 390.56 m²

駐車場面積 5, 853 m²

③ 駐車場

（単位：台）

種類/区分	国	村	計
大型	10	0	10
小型	11	36	47
身障者用	3	0	3
計	24	36	60

④ 公衆トイレ

種類/区分	国	村	計
男性（大）	3	1	4
男性（小）	8	2	10
女性	9	2	11
身障者	1	0	1
小児用	1	0	1
計	22	5	27

(3) 施設事業費

道の駅設置にかかる財政については、構想立ち上げ時から平成 18 年度までの各種計画策定及び調査並びに測量設計については村単独で対応しました。(約 6,000 万円)

平成 19 年度からの整備工事等は、「まちづくり交付金」を活用し、整備事業費の約 4 割の交付金を受けて整備しています。

(単位：万円)

道の駅ひらた地域振興施設(村)	概 要	工事費	交付金	起債	一般財源
用地及び補償費	4,940 m ²	2,292	7,030	3,490	9,488
敷地造成工事	3,899 m ²	4,386			
施設建築工事	390.56 m ²	8,753			
外構・舗装工事	992.6 m ²	1,970			
附帯工事	用水路工事下 水道接続工事	1,901			
測量試験費	実施設計業務 監理委託業務	724	7,030	3,490	9,488
計		20,008			

(4) 直近の販売実績・客数 (レジ通過者)

(単位：千円)

年度	直売所	食堂・ ファストフード	その他	合計	客数 (人)
令和 6 年度	183,519	63,164	7,356	254,039	155,592
令和 5 年度	162,997	61,385	7,569	231,951	150,885
令和 4 年度	162,082	59,163	9,034	230,279	152,251
令和 3 年度	149,592	47,106	8,667	205,365	137,536
令和 2 年度	162,652	45,097	10,127	217,876	141,612
令和 元年度	188,765	56,648	7,255	252,668	179,198

(5)現在の道の駅ひらたの課題

●駐車場の形状と車止め

国道 49 号から道の駅ひらた駐車場に進入する動線が、分かりづらいことに加え、高齢者等が駐車する際、車止めが障害となり駐車に苦勞している。

また、同じく車止めが障害となり、冬期間の除雪作業が重機だけで行えず、人力による作業も必要となっている。

さらに、混雑時は空きスペースが分からず混雑することから、誘導員が必要となり経営を圧迫している。

●敷地の出入口

道の駅の導入部となる国道からの進入は、初めて利用される方には分かりにくく、敷地内通路も閉鎖的で狭く感じる。

また、一般客と農産物等搬入者の動線が同じことから、混雑時にはスムーズな搬入が行えないなどの不便をきたしている。

●駐車場の台数と交通渋滞

国道 49 号とあぶくま高原道路のクロスポイントに隣接する道の駅ひらた駐車場は、普通車 47 台、大型車 10 台であるが、4 月から 5 月の芝桜まつり期間中やゴールデンウィークの観光シーズンには、道の駅に入れず交通渋滞が発生し、一般通行者に迷惑が掛かることから、国道事務所及び警察署から、強く改善指導がされている。

さらに、令和 6 年度にあぶくま高原道路が、福島復興再生道路として整備された「県道吉間田滝根線」と直結し、相双地区からの交通量が増えることが容易に予想され、交通渋滞の解消は、喫緊の課題である。

●休憩施設としての機能

既存の施設内休憩スペースは狭く、屋外にベンチが設置されているのみで、雨天時や猛暑日、強風時に不便をかけている。

また、ドライバーの運動広場やペットのドッグランに対する要望も強くあることから、滞在型施設の整備が必要である。

●情報発信拠点としての機能

情報提供施設には、ライブカメラによる道路情報と、パンフレットなど紙媒体での観光・イベント情報があるのみである。現在では、誰もがスマートフォンで情報を入手できるため、通信環境の高度化が求

められている。

● 飲食の提供

現在、道の駅で提供している平田村産そば粉を使った手打ちそばや特産のハバネロを使用した食品はお客様の評価も高いが、様々な利用者への食のニーズには対応できていない。

● 自然災害への対策

東日本大震災や東日本台風（台風 19 号）等の大規模自然災害においても、道の駅ひらたは大きな被害もなく災害支援ができた。国道 49 号やあぶくま高原道路などの交通の要衝にある「道の駅ひらた」は、広域的な防災拠点としても期待されていることから、後の災害への更なる備えのため、広域的な復旧・復興活動拠点のための避難者受入れなど滞在型を視野にいたした整備が必要である。

（6）現在の「道の駅ひらた」の施設概要

現在国土交通省及び全国道の駅連絡会に登録されている施設概要は、次のとおりとなっています。

野菜は年間 120 種生産。「アスパラコロッケ」「ジャンボメンチ」「野菜ソフト」、ハバネロ（トウガラシ）を使った新商品の激辛レトルトカレーが話題に。村特産のそば粉を石臼で丹念に挽いた手打ちそばも自慢。

（全国道の駅連絡会：駅の概要より）

4. 移転整備の必要性

「道の駅ひらた」は、大規模災害時に緊急物資等の基地機能や復旧復興活動の拠点等となる防災道の駅に選定され、広域的な役割を担うこととなり、現在不足している設備等の整備や防災機能の拡充が急務である。

さらには、駐車場の形状や台数、進入路や敷地内動線、交通渋滞等の課題解決も図る必要がある。

まずは、現在地での整備の可否について、検討を行った。

現在地での駐車場拡張の検討は以前にも行っている経過がある。

今回想定している整備については、課題解決を図るほか不足設備等の整備や防災機能の拡充、観光交流や情報発信等の拠点整備など一定規模の敷地を要するため、現在地周辺では必要用地を確保することは難しい状況にある。

また、畜産農家との距離もさらに近くなり配慮に欠けてしまう。

こうしたことから、現在地周辺での整備拡張は困難であり、「道の駅ひらた」の整備にあたっては、移転整備を行う必要がある。



現在の「道の駅ひらた」

5. 整備コンセプト

現在、道の駅に求められる機能、地域における役割と、平田村や道の駅における懸案事項や諸課題の解決のため、道の駅ひらた移転整備コンセプトと基本方針を以下のように設定します。

【目的】

- 人と人が繋がる平田村の魅力をPRする拠点
- 自然環境に配慮し地域と観光の賑わいの場となる拠点
- 大規模災害に対応できる防災設備強化とネットワーク強化

【コンセプト】

自然豊かな里山の魅力を「味わう」ことができる拠点づくり

【道の駅移転整備のための基本方針】

●自然に囲まれ豊かな里山「ひらた」を味わうことができる拠点づくり

●豊かな食文化と朝採り野菜の「旬と瞬」を味わえる拠点づくり

●人と繋がる「心つながる」喜びを味わうことができる拠点づくり

●防災設備、ネットワーク強化で「安心・安全」を味わうことができる拠点づくり

道の駅ひらたの魅力である、豊かな自然に触れ合い景色を堪能し、特産品を活かすことに加え、デジタル社会に対応した正確で旬な情報を発信し、人との交流による賑わいの創出や雇用・経済の再生を図るとともに、近年多発する大規模自然災害に対応できる防災設備の機能強化と相互支援のネットワークの強化、ロハス工学を基軸とした道の駅ひらたの拠点づくりを目指します。

●自然に囲まれ豊かな里山「ひらた」を味わうことができる拠点づくり

東北百名山の蓬田岳の山頂からの眺望、山麓のジュピアランドひらたは、春はピンクの絨毯の「芝桜」、夏は「世界一の紫陽花」と自然の感動がそこにあります。また、四季を通じて平田村の里山の魅力を体感できる拠点づくりを目指します。

●豊かな食文化と朝採り野菜の「旬と瞬」を味わえる拠点づくり

朝採りの高原野菜、特産のそば、日本一辛い村のハバネロなど、村の魅力の発信と地域の活性化の促進に貢献する拠点づくりを目指します。

●人と繋がる「心つながる」喜びを味わうことができる拠点づくり

ドライブ中の休憩、観光、イベント開催やキッズパーク、多世代交流など地域の施設としての道の駅づくりで、安らぎや癒しの空間を創出し、人々の交流を促進できる拠点づくりを目指します。

●防災設備、ネットワーク強化で「安心・安全」を味わうことができる拠点づくり

道の駅のお客様の安全確保は勿論、大規模自然災害時に防災拠点として、広域的に相互支援できるネットワークを強化し、安心安全に利用できる拠点づくりを目指します。

6. 道の駅導入機能・施設の検討

道の駅の整備目的や整備コンセプトを踏まえ、以下のような機能の導入を検討します。（写真はイメージ）

（１）駐車場

- ①安全で円滑な動線を確保しつつ、施設間の往来に留意した配置と十分な駐車台数を確保し、ゆとりをもった駐車場を整備します。
- ②小型車と大型車は、可能な限り分離した駐車スペースとなるよう整備します。
- ③自転車（貸出等を行うサイクルステーション）やバイク等の駐車スペース・ガレージの整備を検討します。



駐車場



自動二輪車用駐車スペース

- ④施設の近い位置に身障者等の駐車スペース（屋根・手摺付き）を確保します。
- ⑤電気自動車充電スポットを設置します。



身障者等駐車スペース



電気自動車充電スポット

- ⑥自動車（大型トラック等）の振動対策を検討します。
- ⑦車中泊ができるRVパークの整備を検討します。

⑧水素ステーションの設置を検討します。



水素ステーション

(2) トイレ

- ①24 時間利用でき、清潔で明るく使いやすい、誰もが安心して利用できるトイレを整備します。
- ②交通量や施設の利用に応じた便器数を確保します。
- ③車いす使用者、高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方等、みんなが利用できる多目的トイレを整備します。



清潔で明るいトイレ



多目的トイレ

- ④乳幼児をもつ子育て家族が安心して道の駅を利用できるよう、授乳スペースやおむつ交換スペースを整備します。



おむつ交換スペース

(3) 休憩スペース

- ①ベンチやテーブルを設置し、道の駅に訪れた方が気軽に利用し、休憩できるスペースを確保します。



屋内休憩スペース



屋外休憩スペース

(4) 情報発信機能

- ①災害発生時、災害発生状況等の情報を提供するための方法について検討します。



※道の駅 SPOT：別名、道の駅 Wi-Fi。
現在いる道の駅において道路情報、気象情報、災害情報、防災情報の他道の駅周辺の地域・観光情報等を閲覧することができる。

- ②道の駅に訪れた人々に道路情報や周辺の観光・イベント情報を提供するための施設（デジタルサイネージ等）を整備します。



情報発信施設



観光情報

- ③総合案内所の設置を検討します。

（５）農産物販売施設

- ①農産物や加工される物産品等を販売し、村の魅力を発信できる場を整備します。



農産物販売施設

（６）飲食施設

- ①村や近隣地域で生産される新鮮な農産物を提供する飲食の場を整備します。
- ②食のニーズに対応する、料理を提供する場を整備します。



飲食施設

（７）コンビニエンスストア

- ①24時間営業可能なコンビニエンスストアの整備を検討します。



コンビニエンスストア

(8) テナント・チャレンジショップ

① 出店やお試し開業ができる施設の整備を検討します。



チャレンジショップ



テナント

(9) 多目的広場

① 景観を眺め、利用者が心安らげる場の整備を検討します。

② ペット同伴のドライバーが増加していることに配慮し、ドッグランの整備をします。



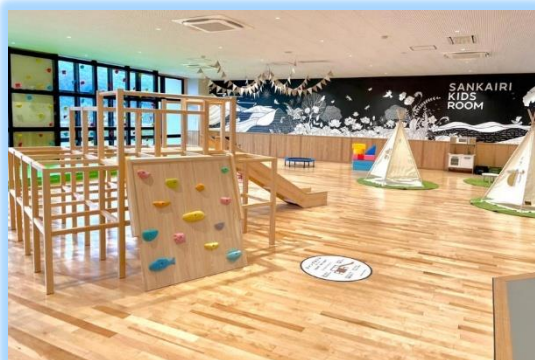
ドッグラン



多目的広場

(10) 子どもの遊び場

① 子どものための遊び場（屋内・屋外）の整備を検討します。



屋内キッズスペース



キッズパーク

(11) 入浴・サウナ・簡易宿泊機能

- ①長距離トラック運転手や蓬田岳登山者等が、疲れを癒せる入浴施設やシャワールーム・サウナ等の整備を検討します。
- ②運転手等が仮眠をとれる施設の整備を検討します。



シャワールーム



簡易宿泊施設

(12) グランピング施設

- ①気軽にキャンプを楽しめるグランピング施設の整備を検討します。



グランピング施設

(13) 商品開発・加工施設

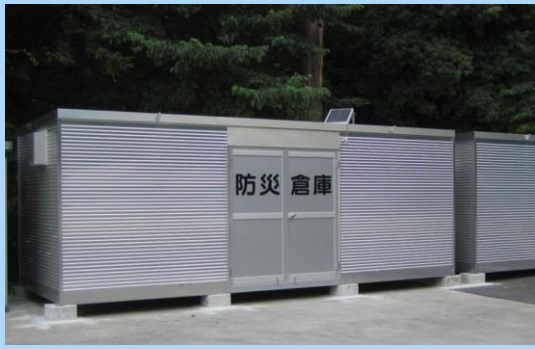
- ①農産物の開発・加工のため、施設の整備を検討します。



農産物加工施設

(14) 防災機能

- ①地域住民等の一時避難場所となるよう整備方法を検討します。
- ②被災時の地域住民や帰宅困難者の支援が出来るよう、防災備蓄倉庫を整備します。
- ③災害時や水不足に備え、十分な水を確保するため貯水施設を整備します。



防災備蓄倉庫



貯水施設

- ④停電が起きた場合に、電気等を使用できるようにするため発電設備を整備します。
- ⑤太陽光発電と蓄電池システムの整備を検討します。



発電設備



蓄電池設備

- ⑥防災・ドクター・自衛隊機のヘリポートの整備を検討します。
- ⑦ペット同伴の避難者やボランティア救助隊等の滞在地の整備を検討します。
- ⑧マンホールトイレの設置を検討します。



防災・ドクターヘリポート



ベースキャンプ

(15) インフラ整備

- ①国道 49 号の右折・左折レーンや信号機、案内標識の整備について、協議・要望します。
- ②周辺道路（新設・拡張）の整備を検討します。
- ③農業集落排水施設（下水道）への接続を検討します。

(16) その他

- ①路線バス停留所の設置を検討します。
- ②ユニバーサルデザインに基づき、すべての人々に利用しやすい施設（駐車場・施設内看板等）を整備します。
- ③ロハス工学を取り入れた、施設の整備を検討します。
- ④急病人・けが人の発生に備え、A E D の設置など行います。
- ⑤A T M の設置を検討します。
- ⑥キッチンカー専用スペースの整備を検討します。
- ⑦音響設備の設置を検討します。
- ⑧ミストシャワーの設置を検討します。
- ⑨研修等開催できる多目的室の整備を検討します。
- ⑩災害時等の水源確保のため、井戸の整備を検討します。



案内表示



多言語案内板



A E D

注釈：ロハス工学（LOHAS）とは

「Lifestyles of Health and Sustainability」の頭文字を集めた言葉で、健康（健全）で持続可能な生活と社会を実現するための工学です。これは、東日本大震災と原発事故から、自立した復興を実現するために必要な工学でもあります。

7. 施設規模

①敷地面積 : 30,000 m²程度

うち国所管分 : 5,000 m²程度

うち村所管分 : 25,000 m²程度

②建物面積 : 2,500 m²程度

うち道路情報提供施設（国） 300 m²程度

うち地域振興施設等（村） 2,200 m²程度

県内道の駅参考規模（一部）

（m²）

名 称	敷地面積	建物面積（本体）
道の駅猪苗代	32,988	2,504
道の駅ふくしま	27,563	2,262
道の駅なみえ	31,378	3,352
道の駅国見あつかしの郷	26,000	2,786

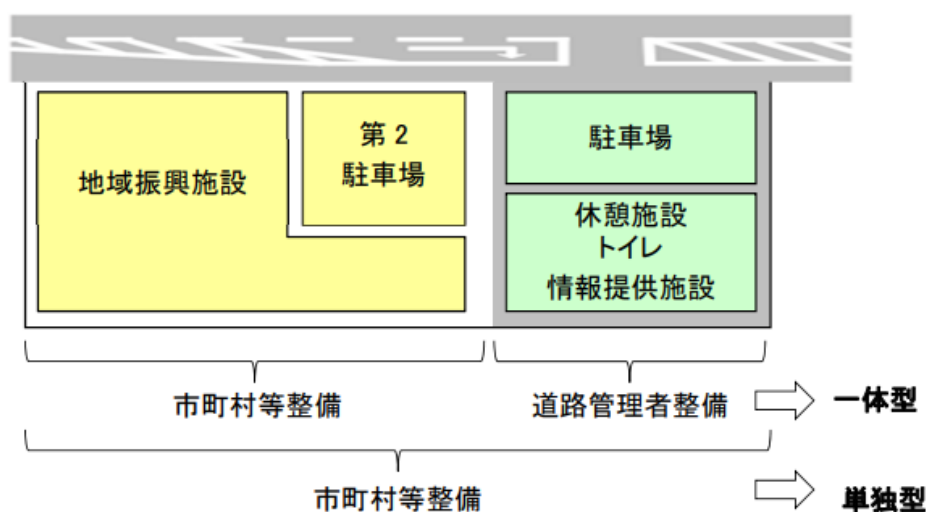
8. 道の駅の整備・管理運営手法について

(1) 道の駅の整備手法について

道の駅の整備手法については、道路管理者と市町村等で整備する「一体型」と市町村ですべて整備を行う「単独型」の2種類があります。

本村の整備手法については、今後、本構想等に基づき道路管理者等の関係機関と調整を進めていきます。

設置者		市町村、都道府県、地方公共団体が3分の1以上を出資する法人、市町村が推薦する公益法人
整備手法	一体型	道路管理者と市町村が一体となり整備する手法
	単独型	市町村が単独で全てを整備していく手法



県内道の駅参考整備手法

整備手法	一体型	道路管理者と市町村が一体となり整備する手法 ① つちゆロードパーク、② オアシス in シルクロード、③ 会津西街道たじま、④ 智恵子の里、⑥ 裏磐梯ビューパーク、⑦ J ヴィレッジ湯遊ならは、⑧ 未来本陣 Soma、⑨ 天領の郷、⑩ 会津福満虚空蔵尊街道、⑪ あぶくま館、⑫ よりっせ、⑬ 野馬追の里、⑭ しもごう Ematto エマット、⑮ 芝桜の里、⑯ 徳一の里きらり、⑰ 奥会津かねやま、⑱ あいづ湯川会津坂下、⑲ 猪苗代、⑳ 国見あつかしの郷、㉑ いいたて村の道の駅までい館、㉒ 伊達の郷りょうぜん、㉓ なみえ、㉔ ふくしま
	単独型	市町村が単独で全てを整備する手法 ⑤ ふれあいパーク喜多の郷、⑬ 尾瀬街道みしま宿、⑭ こぶしの里、⑮ 原羽鳥湖ふれあい広場、⑯ 風香るシーサイド夢長屋、㉑ おふくろの駅、㉒ 番屋、㉓ 季の郷天栄、㉔ きらり 289、㉕ さくらの郷、㉖ からむし織しょうわ、㉗ 尾瀬桜枝岐

(2) 道の駅の管理運営手法について

道の駅の管理運営手法は設置者である村が直接管理する方法（公設公営）と、村が施設を整備し、指定管理者制度や PFI によって民間団体等が運営する方法（公設民営）があります。

本村の道の駅は、民間活力を活用することを想定し、公設民営による手法にて検討を行います。

公設公営と公設民営の長所及び短所

整備手法 管理運営者	公設公営 村	公設民営 指定管理者等
概要	- 自治体において直接管理運営を行う形態。 - トイレ等の維持管理や販売・飲食施設の運営など、施設ごとに業務委託またはテナント方式をとる場合が多い。	- 施設全体の管理運営を公共的団体又は民間事業者等に委託する形態。 - 販売施設、飲食施設はテナント方式による場合もある。
長所	- 公共目的が直接反映できる。 - 行政施策との連動が図り易い。	- 民間企業が有するノウハウを活かして、効果的・効率的な施設運営が期待できる。 - 利用者や地域ニーズに対応した魅力づくりへの柔軟な対応が期待できる。
短所	収益施設の運営ノウハウが少ないため、収益性が求められる道の駅の統合的な管理運営が困難となる場合がある。	短期間で管理運営者が交代した場合、ノウハウの蓄積を妨げることも懸念される。

9. 道の駅ひらた移転候補地の選定

(1) 候補地の検討

まずは、最も交通量のある国道 49 号沿線、防災道の駅の選定要件である I C から 5 km 圏内で検討を行なった。

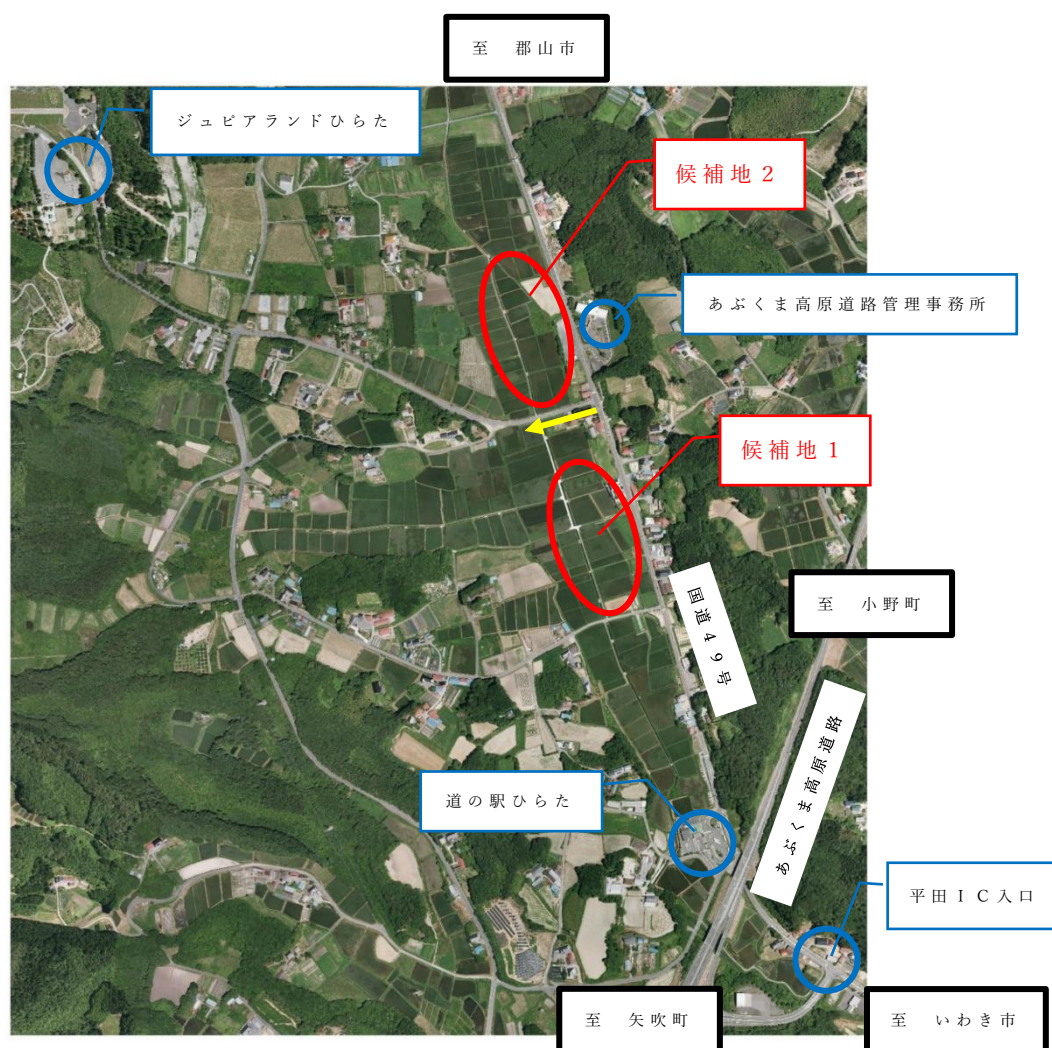
現在の道の駅からいわき市方面で検討した際、住宅や店舗など既存施設があり候補地として不適と判断した。

同様に郡山市方面で検討した際、住宅や店舗など既存施設が点在しているが、一体的に敷地を確保できるため蓬田新田地区で検討を行なった。

蓬田新田地区は、本村の観光交流の拠点である「ジュピアランドひらた」があり、当該施設と連動した道の駅として相乗効果を高め、人々の交流を促進できる拠点として期待できる。

候補地は、「ジュピアランドひらた」との相乗効果を図る観点から進入口の左右、現在の道の駅から約 500m 北側と 1,000m 北側に位置した 2 か所を候補地とした。

なお、移転に伴い現在の「道の駅ひらた」跡地については、石川消防署平田分署の移転候補地とする。



(2) 候補地の選定

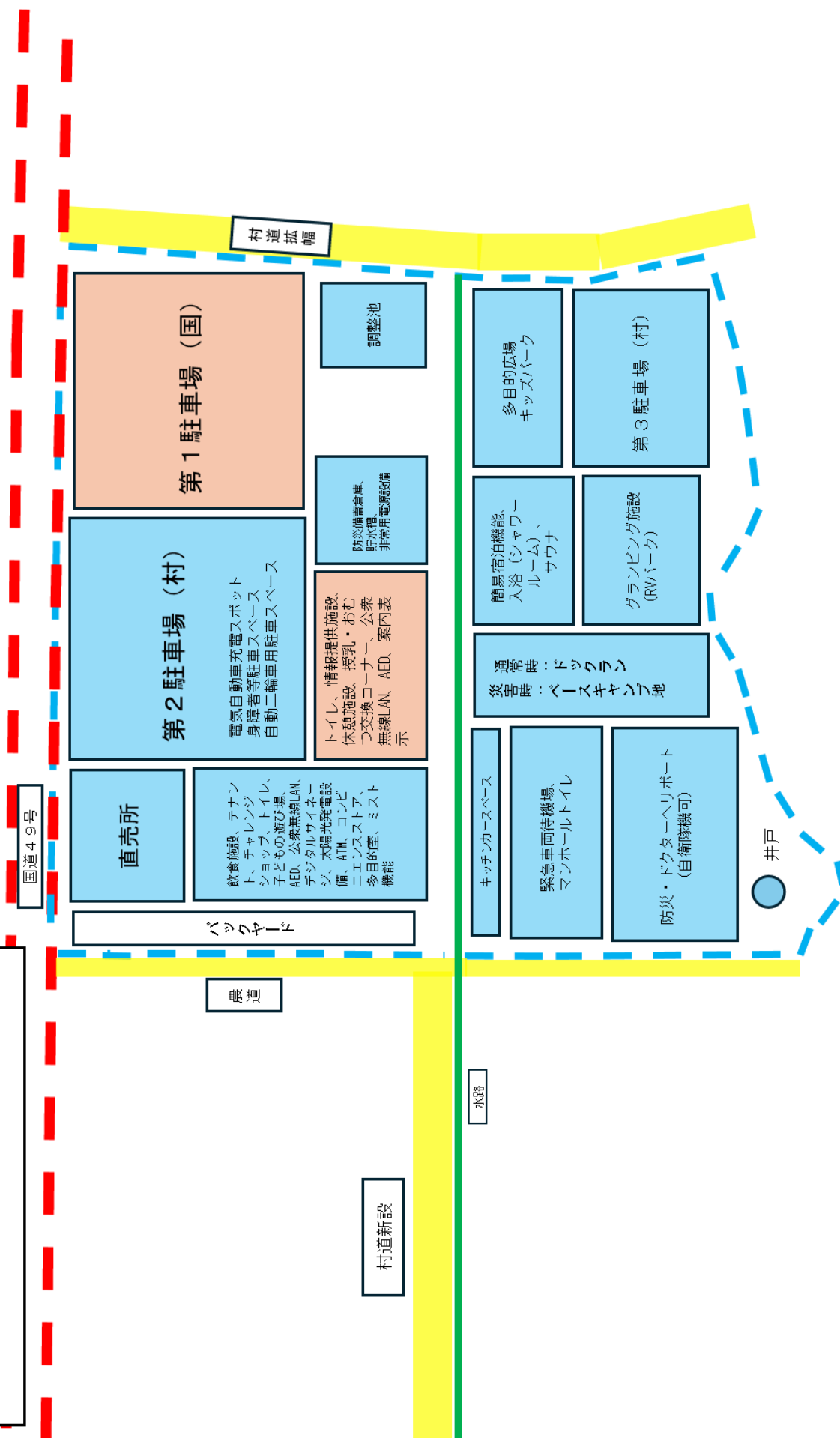
道の駅ひらた移転再整備検討委員会において、2カ所の候補地について議論を行い、様々な視点から比較検討を行った結果、**候補地 1**を選定することとなった。

	候補地 1	候補地 2
長 所	・国道 49 号の接続面が多く、右折レーン工事の整備が容易である。 ・ジュピアランドひらたの繁忙期を考慮すると距離が離れた方が渋滞緩和になる。 ・平田 I C からの距離が近い。	・ジュピアランドひらたとの距離が近く、既存道路の整備は必要だが接続道路は必要なくなり費用が抑えられる。 ・付近に住宅地が少なく騒音問題が比較的少ない。
課 題	・ジュピアランドひらたとの相乗効果を図るため接続道路整備が必要になる。 ・国道 49 号を挟んだ向かい側が住宅密集地であるため騒音問題が課題となる。	・国道 49 号からの接続道路がジュピアランドひらたの入口と同路線となるため繁忙期の渋滞が予想される。 ・国道 49 号の接続面が少なく右折レーン工事の整備が困難である。 ・候補地 1 と比較して、現在の道の駅からの距離が離れるため下水道接続に伴う費用がかかる。 ・候補地 1 と比較して、湧水があり地盤が軟弱で地盤改良が必要。また、国道 49 号と現地盤高との差があり土地の造成費用がかかる。 ・土砂災害警戒区域に近い。

【候補地 1 を選定した理由】

それぞれのメリット・デメリットはあり、候補地 1・2 に差異はないが、国道 49 号や村道の渋滞対策、平田 I C からの距離、整備費用など総合的に判断し選定した。

10. 施設等の配置（イメージ）



11. 事業計画

「道の駅ひらた」の移転再整備は以下の計画のとおり、令和12年度中のオープンを目指す。

なお、事業計画は、今後の調整等により変更する可能性がある。

内容	令和7年度				令和8年度				令和9年度				令和10年度				令和11年度				令和12年度			
基本構想の策定																								
基本計画の策定																								
調査関係																								
許可申請関係																								
用地取得関係																								
基本設計																								
実施設計（土木）																								
実施設計（建築）																								
実施設計（道路等）																								
管理・運営の検討																								
工事（土木）																								
工事（建築）																								
工事（道路等）																								
交付金関係																								
オープン																								

12. 道の駅ひらた移転再整備検討委員会名簿

No.	氏 名	所属等	役職等	備考
1	岩 城 一 郎	日本大学工学部	土木工学科 教授	委員長
2	三本松 利 政	平田村役場	副村長	副委員長
3	瀬 谷 一 男	農畜産業代表		
4	三本松 源 治	(一財) 平田村産業振興公社	常務理事	
5	高 野 哲 也	(株) 道の駅ひらた	駅長	
6	板 垣 浩 美	国土交通省東北地方整備局	道路部 交通対策課長	
7	渡 辺 央	国土交通省東北地方整備局 郡山国道事務所	副所長	
8	藤 原 拓 也	陸上自衛隊郡山駐屯地 東北方面特科連隊第一大隊	大隊長	
9	大 島 明 子	福島県県中地方振興局	企画商工部 副部長兼課長	
10	森 豊 太 郎	福島県県中地方振興局	県民環境部 副部長兼課長	
11	木 村 豪	福島県県中建設事務所	企画管理部 企画調査課長	
12	浦 部 智 義	日本大学工学部	建築学科 教授	
13	川 崎 洋 輔	日本大学工学部	土木工学科 准教授	
14	浅 野 和香奈	日本大学工学部	土木工学科 客員研究員	
15	坪 井 和 幸	平田村役場	総務課長	